

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2001. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 212

日本野鳥の会 埼玉県支部

カモが色をぬるのではありません。野外でカモをよく見て、右ページの絵に色を着けてみましょうという意味です。

「ぬり絵?、そんな幼稚なことを!」と思う前に、一度試してみてください。完成が近づくにつれ、ジワジワとあたたかいヨロコビが湧いて来るから不思議です。

また、今月号は超ビギナー講座ですが、ベテランの方は、何も見ずにこのぬり絵を試してみましよう。もしかしたら図鑑で確かめざるをえない部分が出てくるかも知れません。

1 なぜカモなの?

その回答を『しらこぼと』1997年1月号より引用します。

「冬の季節は、樹々もすっかり葉を落とし、水辺の草も枯れて、最も鳥を見やすい季節なのです。それにチラッ、チラッとしか見ることのできない山野の鳥に比べて、冬のカモたちは見通しのきく水面やその岸辺にゆったりと群れていることが多く、また、体も大きいのでじっくり見ることができます。超ビギナーの方たちはカモから始めるのが一番です。」

右の図で、上の4種類は比較的容易に観察できるカモ達です。私は「カモ基本4種」と呼んでいます。

なお、左上のカモは♂♀同色ですが、他は♂だけを描いています。♀は大変地味で分かりにくいからです。

2 準備です

まず、3ページのカモ達を大きめにコピーして下さい。もし可能なら画用紙にコピーして下さい、ぬり絵が気持ち良くなります。

次に色鉛筆を用意します。色鉛筆以外の物も試してみましたが、野外での携帯性と使い勝手から、結局色鉛筆に落ち着きました。それも12色程度で、パカッと両開きになる金属製の薄いケースに入っている子供用のもので十分です。12色でも必要ないもの(例えば白、橙色、黄緑、水色など)もあり、それは外して、あれば助かる色(赤茶色、肌色、おうど色など)を補充します。

そして、これらをポケットに詰め、近くのカモの集まる池や川に出かけるわけです。

私の場合は、コピーを適当に折ってケースの上蓋の内側にはさんでおきます。そして「ぬり絵」の時は、ケースを開いたままにし、上蓋の内側にはさんでいるコピーに色をつけていきます。こうすると、色鉛筆も取りやすいし、上蓋が下敷きがわりにもなって具合がいいのです。

3 ぬりながら

水辺に立って、1番目立つカモに目をつけます(多分それは♂)。そのカモの「頭は…、顔は…、胴体は…」などと視点を移しながら、同時に□印のチェック項目を確認していきます。そして、「あのカモはこのカモだな」と自分で決めたら色をぬります。もしも、チェック項目以上に強く印象に残るポイントがあれば余白に書き込んでおきます。

ついでに、自分で考えた名前つまりあだ名を()に記入します。そして帰宅したら、自分の絵、チェック項目、余白の書き込み、あだ名から、図鑑でそのカモの名前を調べます。図鑑で分かった名前は[]に記入します。

しかし、どう見ても「カモ基本4種」とは違うカモもあります。そのときは、3ページ下の2つの図を利用して色をぬります。

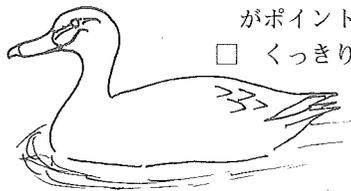
このようにして鴨の「ぬり絵」を何度か経験していると、マガモ♂、コガモ♂、ハシビロガモ♂の緑色は違うことに気が付きます。オナガガモ♂の脇の小紋の複雑さ上品さにハッとします。目の色や足の色も知りたいと思うようになるから不思議です。

こうしてできた自分だけの図鑑は一番分か

自分で考えた名前

() []

- 大きなカモ、全体は薄いベージュ色
- くちばしの先の黄色がポイント
- くっきり2本のアイライン



自分で考えた名前

() []

- 目は、ピンと反った長い尾、とってもスマート
- こげ茶の頭に白いエプロン



自分で考えた名前

() []

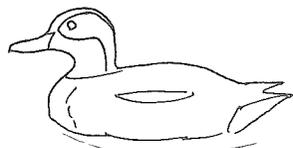
- 目は、頭の上にクリーム色の飾り、赤茶色の顔
- 目は灰色の胴体、黒い尻



自分で考えた名前

() []

- 目は、他の鴨より小さい。
- 目は、赤茶色の顔に緑色のアイマスク



自分で考えた名前

() []



自分で考えた名前

() []



りやすい図鑑です。一番大切なフィールドノートです。

4 つけたし

会員の方々の中には、今学校で盛んに実施されている「総合的な学習の時間」に講師として参加されている方もいらっしゃるかと思います。その際、この鴨の「ぬり絵」が参考になる、または利用できるかと思えます。

私の経験では、子供達に「カモをスケッチしよう」や「見て気が付いたことを記述なさい」は無理でした。3ページ下の図を利用して結果はよくありませんでした。「ぬり絵」にしたらくまいくきました。自分で考え

た名前も喜びました。あとで和名が分かって、その名前を使い続けている子もいました。

また、「ぬり絵」は前もってチェック項目の色だけを教室等で済ませておいて、現場ではそのカモを探す方法も成功でした。この場合も初めから和名は教えませんでした。

さて、来年の2月23日(土)に東京上野公園不忍池で「鴨のぬり絵探鳥会」を予定しています。詳細は2月号の『しらこぼと』をご覧ください。「ぬり絵」は、小学校低学年から年配者まで、また、ビギナーからベテランまで全ての人が楽しめます。是非、お越しください。

2001年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉支部研究部

日時：2001年9月15日 9：40～11：20

場所：さいたま市 大久保農耕地

天候：晴のち曇り

当日は秋雨前線が日本海の南部から東北の中部にかけて停滞しており、南からは湿った空気が入りこんだため、雲が多く蒸し暑い日でした。そのような中、支部会員16名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

観察された鳥種・個体数は0種0羽で、春と秋を通して調査が始まっているの結果となりました。これは、直前の台風15号の影響で調査地全域が冠水し、冠水前までは確認されていたムナグロなどが、他に移動したためだと考えられます。

グラフは秋のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

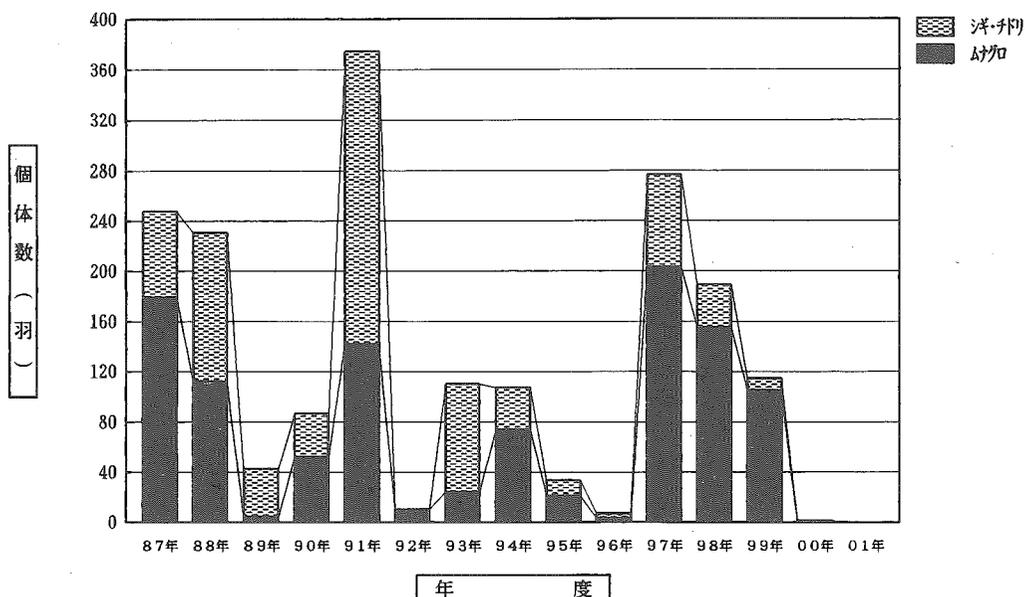
(注) シギ sp. はジシギ sp. かタシギのどちらかなので、種数に入れませんでした。

(石井 智)

1998年～2001年 秋のシギ・チドリ類調査結果

調査地	大久保農耕地 さいたま市			
	'98年	'99年	'00年	'01年
種名				
ムナグロ	155	105	—	—
エリマキシギ	2	—	—	—
ホウロクシギ	—	1	—	—
コシャクシギ	6	—	—	—
タシギ	24	6	—	—
オオジシギ	—	—	1	—
ジシギ sp.	2	1	—	—
シギ sp.	—	1	—	—
個体数合計	189	114	1	0
種数合計	5	4	1	0

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



探鳥会は光速宇宙船？

羽加井紀文（鴻巣市）

吉見の探鳥会に初参加したのが1988年11月、そのときハヤブサを見て「初参加でラッキー」といわれてから13年以上も楽しんできた。

その間に、私も県の施設への入場がフリーパスとなり、高齢化社会の構成員になってしまった。でも探鳥会に参加しているときには不思議と年を忘れている。それは、親しい仲間の方々も元気で平等に加齢しているし、新たに会員になられた方も元気な同年代の方が多いためだろうか。それとも鳥を見ることに集中していて、あたかも光速の宇宙船に乗っているのと同じように時間が停止して移動している世界、年をとらない空間？になっているためだろうか。

それならそれで素晴らしいのですが、現実には家に戻ると「開けて悔しい玉手箱」、「どっこいしょ」で年を感じている。同輩の皆さんはどうですか。

そこで5年後、10年後も光速宇宙船のクルーザーとして、若く元気印でいられるようにセルフチェックを作ってみました。私は不合格でしたがこれに○印がつかないあなたは熟年アイドル船長ですよ。

- 一、探鳥会にはいつもの地味なスタイル。
- 二、最近ズボンがきつくなってきた。
- 三、つつい「どっこいしょ」。
- 四、暇をもてあますと、ごろりと粗大ごみ。
- 五、プロミナが最近重たくなってきた。
- 六、電車に乗るとすぐ席を探す。
- 七、歩くのが苦になり、つつい近くも車。
- 八、おしゃれと運動は無縁になっている。
- 九、「昔と今は違う」と子供にいわれる。
- 十、物忘れが多くなった。

秋の渡良瀬遊水地・ツバメの囀

内田孝男（茨城県総和町）

今年の台風15号は各地にその爪痕を残した。渡良瀬遊水地も例外ではなく久しぶりに第一調整地にも水が入りヨシ原はその緑を褐色に染めた。そんな風景の中に今年もぞくぞくと

ツバメ類が集結、その数数万から十数万。毎年場所は少し変わるがやって来る数はどうなのだろう、数が多すぎてよくわからない。

夕方最初に群れでやって来るのはムクドリ。大きな浮遊物体が不規則な動きとなってやって来る。続いてスズメやカワラヒワ。比較的規則正しく一定方向へ飛んでいく。

ツバメは日没前後から群れをなして三々五々やって来る、そしてしばらくは薄暗くなった大空を、万羽のツバメが所狭しと飛び回り、埋めつくす。やがて大きなグループに別れヨシ原すれすれに飛びまわった後、ヨシに止まり羽を休める。しばらくはざわざわしているが夜の闇とともに静けさを取り戻す。とにかくこの一時は不思議な感動をおぼえること請け合いです。

ツバメたちはここで旅立ちに必要な体力を蓄え、やがて南へ飛び立つ。越冬の異国の地で元気に過ごし、また来年やって来てほしい。渡良瀬遊水地はこれだけでも本当に必要な所だ、残し保全していかなければと思う。

はみ出し行事案内

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：14年1月26日（土）～27日（日）

集合：26日午前7時50分、大宮駅西口。

費用：19,000円の予定（バス代、1泊2食付き宿泊料、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。

定員：25名（最小催行人員15名、先着順、支部会員優先）。

申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、榎本秀和

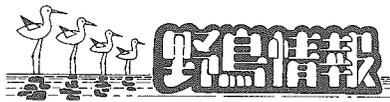
ま

で。

担当：榎本（秀）、橋口、逸見

見どころ：日本一のカモメの名所へ、海鳥ファン必見のバスツアー。船橋海浜公園にも立ち寄る予定です。

注意：宿は男女別相部屋です。個室のご用意はできません。



さいたま市下山口新田 ◇9月7日午後4時頃、芝川第一調整池でコガモ15羽、キンクロハジロ♂1羽、クサシギ1羽。9月25日午後4時頃、同所でハシビロガモ3羽、コガモ4羽、コアオアシシギ1羽、タカブシギ1羽、トウネン2羽、オジロトウネン1羽、セイタカシギ1羽、ダイゼン1羽、コチドリ数羽、チョウゲンボウ1羽。9月26日午後3時頃、セイタカシギ1羽、コアオアシシギ2羽、ダイゼン1羽他。9月28日午後4時30分頃、セイタカシギ1羽、コアオアシシギ2羽、ダイゼン1羽、アオアシシギ1羽、オジロトウネン1羽、コチドリ、イカルチドリ、イソシギ。夕日の中、茶色っぽいシギ2羽、よく観察してウズラシギと判明。さらによく見ると、1羽はクチバシが長く、胸の斑と白い腹の境がはっきりしていたのでアメリカウズラシギと判断した(鈴木紀雄)。

さいたま市上野田 ◇9月10日午後2時頃、台風による強風の中、カラスにモビングされるサシバ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市大谷 ◇9月10日午後2時30分頃大谷環境広場でクサシギ1羽。9月11日午後3時頃、同所で台風の雨の中、クサシギ2羽。10月10日午後3時頃、同所で雨の中クサシギ2羽、タカブシギ1羽、タシギ5羽、コガモ約100羽(鈴木紀雄)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇10月9日午後2時~3時、子供の森でキビタキ♀2羽、トラツグミ2羽、「シーッ」と強い声を出していた。クロツグミ♂1羽。マミチャジナイ2羽、内1羽は若鳥、久しぶりに白い眉斑を見た。ピクニックの森でキビタキ♀1羽。マヒワ約20羽の群れ、もうマヒワが来ていたのでビックリ。この冬は厳しいのかな。10月11日午後1時30分頃、ピクニックの森でエゾビタキ3羽以上。子供の森でキビタキ♀1羽。オオタカ1羽、カラスが騒ぐので上を見ていたら、地上にいた。大久保農耕地B区、C区でノビタキ約5羽(鈴木紀雄)。

戸田市道満彩湖 ◇10月3日、ユリカモメ1羽。今秋初認。10月9日、ヒドリガモ10羽。10月13日、オナガガモ18羽、キンクロハジロ1羽、ノビタキ10羽、釣り堀横の公園でエゾビタキ3羽。10月16日、ハジロカイツブリ1羽、ショウドウツバメ10羽。チュウビ1羽、北へ。コミミズク2羽、1羽は練馬方面へ、もう1羽は上空を2~3度回り西の本流側に下りた。10月20日、ハイロチュウヒ♀1羽、オオタカ1羽、ウグイス、アオジ、シメ、カケス(倉林宗太郎)。

岩槻市高曽根 ◇9月7日午後4時頃、しらこぼと水上公園西側の休耕田の水面でケリ2羽、タカブシギ1羽、クサシギ1羽、カワセミ1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市長宮、増長 ◇9月11日午後1時30分頃、台風の中、あちらこちらにいるタシギ。上空を飛ぶものも含めて約10羽(鈴木紀雄)。

岩槻市太田 ◇9月24日午後3時頃、実家の庭の木でキビタキ♀1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市文化公園 ◇9月24日午後4時頃、オオタカ幼鳥1羽、木立にとまっていたが、飛び立ったところをカラスに追われた。9月25日午後2時30分頃、ヤマガラ2羽、エゴノキの枝でホバリングしたり、飛び回ったり。9月27日午後1時頃、シジュウカラ4羽、メジロ2羽の混群の中に上面かなり暗色、胸も上面ほどではないが暗色、腹は白っぽい鳥が混じっていた。アイリングはあまり目立たず、目先の淡色部もわからず。三列風切羽縁はやや淡色だがエゾビタキのようにはっきりしていなかった。以上からサメビタキと判断した。木々の込み入った枝葉の中を動いていた。その他トケン類1羽。9月30日午後3時30分頃、芝生広場の桜の木でエゾビタキ2羽、内1羽は幼鳥。10月1日午前8時頃、エゾビタキ2羽、キビタキ♀1羽、カケス1羽、シメ1羽。10月5日午前9時頃、アカゲラ♂1羽、ツツドリ(幼鳥?)をカケスが追っていた。コジュケイ2~3羽がゴソゴソ出てきた。1羽は飛んでフェンスに衝突していた。10月6日午後1時頃、エゾビタキ2羽、カケス7羽。10月12日午後1時頃、シジュウカラ、

メジロ混群とともに、ムシクイ類1羽、キビタキ♀1羽。エゾビタキ1羽。10月11日午前8時30分、ツミ♀1羽がカラスに追われて東へ（鈴木紀雄）。

岩槻市岩槻公園 ◇10月1日午後1時頃、ヤマガラ2羽、エゴノキの実に来ていた。エゾビタキ4羽、葉のない枝にとまったり、飛び回ったりしていた。10月3日午後12時30分頃、エゾビタキ2羽（鈴木紀雄）。

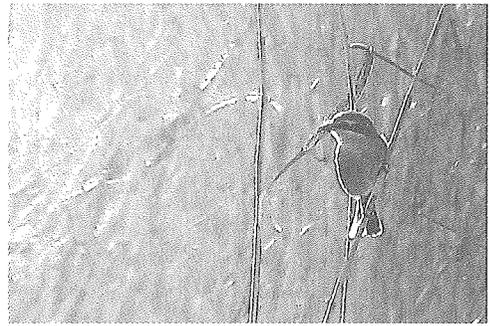
蓮田市黒浜 ◇9月13日午後3時頃、上沼脇の電線にとまっていたムクドリ30~40羽の群れ中にコムクドリ3羽。10月5日午後1時30分頃、東埼玉病院付近でエゾビタキ1羽（鈴木紀雄）。

川越市南古谷 ◇9月2日、タマシギ成鳥1羽ヒナ4羽、ヒナ達が側溝から上がれず、親鳥が擬態し、道路上で大忙しをしていました。15分位してもヒナ1羽が親達と合流できずにいたので観察人の手で親達のいる田んぼに放してあげました（米澤園子）。

渡良瀬遊水地 ◇9月16日午後4時頃、ミサゴ1羽、チュウヒ1羽、アジサシ4羽。水路の護岸50m程の間でキセキレイ約50羽。9月29日午前8時30分頃、バンディングの様子を見学させていただき、ヨタカ♀1羽、ノゴマ♀2羽、シマセンニュウ1羽を間近で（鈴木紀雄）。

坂戸市入西調整池 ◇9月29日午前7時30分頃、チョウゲンボウ1羽、ゴイサギ4羽、バン1羽、カワセミ、マガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ他合計22種（後藤康夫）。

坂戸市東和田 ◇9月29日午前8時40分、越辺川周辺でノビタキ4羽、ショウドウツバメ2羽、カケス約10羽、オナガ約10羽、トビ1羽、ヒヨドリ約100羽の群れ、ツバメカワウ他（後藤康夫）。



モズ（手塚正義）

東松山市物見山駐車場 ◇9月29日午前9時30分~午後1時定点観察。9時31分、サシバ1羽。10時30分、サシバ約50羽のタカ柱。11時30分、サシバ11羽。12時26分、サシバ2羽。その他オオタカ3羽、アマツバメ5羽、ヤマガラ、メジロ、コゲラ、シジュウカラ、ツバメ（後藤康夫）。

寄居町大正池 ◇9月29日、カイツブリ包卵中。スコープで見える卵は2個（新井巖）。

寄居町玉淀 ◇9月29日、オシドリ♂♀。♂はかなり色づいていたが、まだ銀杏羽はなかった（新井巖）。

本庄市荒川 ◇9月29日、坂東大橋下流でハマシギ11羽、小規模ながら編隊飛行。アオアシシギ2羽（新井巖）。

小川町金勝山 ◇10月6日午後12時40分、エゾビタキ1羽、サメビタキ1羽、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、メジロ、ホオジロ、カケス（後藤康夫・喜久子）。

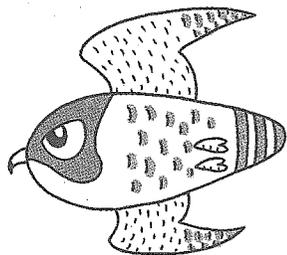
嵐山町菅谷館~都幾川 ◇10月7日午後12時40分~午後2時20分、ミサゴ1羽、カラスにモビングされていた。アオゲラ♂1羽、アカゲラ1羽、シメ1羽、イカルチドリ数羽。コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラメジロの混群他合計26種（後藤康夫・喜久子）。

表紙の写真

スズメ目セキレイ科セキレイ属キセキレイ

撮影：松村禎夫（さいたま市） アジアの温帯・亜寒帯から、アフリカのサハラ以南、ヨーロッパにも分布する。英名は Grey Wagtail。日本名を直訳して Yellow Wagtail というと、ツメナガセキレイのことになってしまうので、要注意。黄色がより目立つツメナガセキレイの方に Yellow の名をつけて、キセキレイは背中 Grey に注目したようだ。キセキレイの映える白い雪の季節も間近。（解説：編集部）

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：12月1日(土)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前

担当：玉井、中島(康)、中村(榮)、田中、長嶋、長野、松永、榎本(建)

見どころ：いよいよ冬です。鳥数が増えて里の鳥見が楽しい季節となります。アシ原ではアオジ、オオジュリン、カシラダカなどが餌を探しています。沼にはどんなカモがきているかな？ オオタカが飛んでくれるといいですね。のんびりと冬の農村を楽しみましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月2日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、今井、山野、樋口

見どころ：定例となって10年が経過。バスが通り、学習センターも充実。「石戸宿風信」も40号になります。新しい発見のある探鳥会を目指します。今回は山から帰ってきたキツツキと冬鳥のベニマシコとの再会が楽しみです。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈見沼ヘルシーロードコース〉

期日：12月2日(日)

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園前

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、大崎園芸植物園行き8:30発、または東川口駅北口行き8:38発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：伊藤、手塚、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)

見どころ：ひんやりとした朝の空気の中、冬の小鳥たちに会いに行きます。翼に白斑のヒッヒッと鳴くかわいい鳥や、数歩あるいて胸をそらせて立ち止まりを繰り返すあの鳥、田んぼの貴公子と呼ばれ、ミュームューと子猫のように鳴く例の鳥にも会いたいですね。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、高橋、後藤、藤田

見どころ：いよいよ寒くなり鳥も多く見られる時期になってきました。森ではアトリ、カシラダカ、アオジ。草原ではツ

グミ、ジョウピタキなど。明戸堰では遠望となりますが、コハクチョウやカモ類が多く見られます。防寒対策はお忘れなく。

岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月9日（日）

集合：午前8時40分、東武野田線岩槻駅前、集合後バスで現地へ。または午前9時20分、文化公園国道16号側駐車場。

交通：東武野田線大宮8：19発柏行き、または春日部8：24発大宮行きにて岩槻下車。

担当：中村（榮）、中島（康）、吉安、橋口、玉井、松永、田中、長嶋、長野、榎本（建）

見どころ：公園とその周辺を歩きます。林やアシ原ではアオジ・ジョウピタキが、水辺ではカワセミ・カモやカモメの仲間が見られます。今年もアオゲラやアリスイが来てくれれば最高です。みんなで探しましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月16日（日）

集合：午前9時40分、森林公園南入り口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9：17発バスにて終点下車。

費用：入園料400円（子供80円）

担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、石井（幸）、青山、喜多、後藤、今井、栗原

見どころ：「西吹けば 東にたまる 落ち葉かな」蕪村。日足が最も短い時季、人影も少ない疎林に落ち葉を踏みながら行けば、木漏れ日の枝あい縫って小鳥たちは飛び交う。カモたちは衣替え（換羽）を終えて、多くの沼に群れている。山田大沼までのコースです。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、清水、小菅、新部

見どころ：みなさまのおかげで200回を迎えました。'84年5月20日からスタートして17年7ヶ月たちました。鳥とともに人の和を大切に毎月行うことができよかったです。特別な行事はいたしません、見沼田んぼに感謝してクリーンアップ探鳥会、身近なゴミを拾います。手袋など持参していただければ幸いです。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：12月22日（土）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口、または午前9時はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8：01→久喜8：22着にて、東武伊勢崎線春日部8：14→久喜8：28発に乗車、花崎8：39着。

担当：中里、玉井、田中、長嶋、田村、宮下

見どころ：すっかり冬の景色となった公園。茂みの奥やこずえで、冬の小鳥たちを探してみましょ。池ではカモたちも勢ぞろいしています。ビギナーの方にお勧めのコースです。何か良いことがあったら来年の幸運につなげましょ。寒さに負けずにおでかけください。

『しらこぼと』袋づめの会

期日：12月22日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

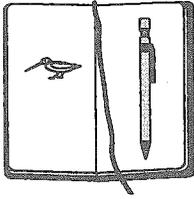
案内：今年最後の袋づめとなりました。一年間ありがとうございました。来年も引き続きよろしくお願いたします。

年末講演会

期日：12月24日（月・祝）午後1時30分～4時30分（受付開始午後1時）

詳細は12頁をご覧ください。

◆行事案内は5頁にもあります。



行事報告

8月19日(日) 千葉県 船橋海浜公園

参加: 19人 天気: 晴

ハジロカイツブリ カワウ コサギ アオサギ
スズガモ ハヤブサ ミヤコドリ シロチドリ
メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウ
ネン オバシギ ミユビシギ キアシシギ オオ
ソリハシシギ チュウシャクシギ ウミネコ ア
ジサシ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセ
キレイ セッカ スズメ ハシボンガラス (26
種) いやー遠い。この日は年で一番の大潮で、今
まで出ていないようなところまで浅瀬が出ている。
人も潮干狩でいっぱい。鳥はハジロカイツブリの
夏羽が近くで見られ、越夏のミヤコドリとかシギ・
チドリを見て、ハヤブサの若が出て、探鳥会が終
了。(佐久間博文)

8月26日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 48人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コ
サギ アオサギ カルガモ バン ハジロコチド
リ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイ
ゼン キョウジョシギ トウネン オバシギ ミ
ユビシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ
ソリハシシギ オオソリハシシギ ホウロクシギ
チュウシャクシギ セイタカシギ ウミネコ キ
ジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セツ
カ シジュウカラ スズメ ムクドリ オナガ
ハシボンガラス (36種) 潮が満ちてきて、鳥が集
まって休んでいるのを観察した。これもシギ・チ
ドリの生活の一面。時々聞こえるシギ類の鳴き声も
聞いてもらった。3声で鳴くアオアシシギの声は
印象的。珍しいハジロコチドリは全員で見た。

(杉本秀樹)

9月2日(日) 第18回リーダー研修会

参加: 47人

本部ネイチャースクールから山本浩伸氏が参加。
新規受講者15人に、役員・リーダーを合わせて総

勢47人が集い、今回も有意義な研修会となる。

これだけの人数が一堂に会して、共に学び、意
見交換できる場は他にはない。18回の歴史を活か
し、研修会をどのように向上させていくかが今後
の課題である。

終了後の懇親会にも30人の参加があり、大いに
盛り上がった。(榎本秀和)

9月15日(土、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 16人

池内輝明、石井智、海老原教子、大坂幸男、北村
隆、小林ますみ、佐久間博文、品田正雄、志村佐
治、杉原みつ江、中里裕一、成瀬慶一、福井恒人、
藤掛保司、星野政一、松村禎夫 ◆ さいたま市秋
ヶ瀬地区で行われた。台風で河川敷が水につかつ
たためか、初の記録0となった。(石井 智)

9月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 66人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ カル
ガモ トビ コジュケイ キジ バン キジバト
カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨ
ドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒ
ワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボンガラス
ハシブトガラス (24種) 残暑が厳しい探鳥会であ
った。しかし、三室には暑さにも負けないたくさ
んの参加者の熱気があった。カワセミが2回出現
珍しくトビも飛んだ。コガモたちや、早々と現れ
るはずの鳥たちが見られなかったが、楽しい探鳥
会だった。(楠見邦博)

9月16日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 38人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ チュ
ウサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ
オオタカ イソシギ キジバト カワセミ ツバ
メ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラ

ヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (28種) 楽しみにし
ていただいた野鳥との出会い。新聞にも案内があ
り、多数の方々の参加があった。台風15号の影響
で観察コースに浮き石や水たまりがあり、その中
にアメリカザリガニが、はさみを広げて通せんぼ
していた。定番のカワセミ、オオタカも確認。彼
岸花も今年は早咲きのように感じた。(藤掛保司)

9月22日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 12人

新井浩、伊藤泰一郎、大坂幸男、尾崎甲四郎、島
田恵司、島田沙織里、島田貴子、藤掛保司、増尾
隆、松村禎夫、百瀬修、山野豊

9月23日(日) 狭山市 入間川
参加: 34人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ キジ
イソシギ キジバト ジュウイチ カワセミ コ
ゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エナガ ヤマ
ガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラ
ヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (26種) 久しぶりに初記録の鳥が2種。
1種目はショウドウツバメ。ツバメとイワツバメ
が見られずに、ショウドウツバメだけというのも
不思議。もう1種はジュウイチの幼鳥。稲荷山公
園の雑木林で、枝から枝へ少しずつ移動している
姿が見られた。(長谷部謙二)

9月30日(日) 本庄市 坂東大橋
参加: 34人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ササゴイ ダイサギ コサ
ギ アオサギ マガモ コガモ ミサゴ オオタ
カ チョウゲンボウ キジバン イカルチドリ
クサシギ イソシギ キジバト アカゲラ ヒバ
リ ショウドウツバメ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ
セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド
リ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 牧
草にノビタキが、上空にはショウドウツバメが
舞い、秋のやってきたことを感じる。ここでは初
記録のアカゲラ、ササゴイの姿も。フィナーレは
ミサゴの出現。おっと、オオタカ君も木に止まっ
て、じっくり勇姿を見せてくれた。(北川慎一)

10月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 41人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ヒ
ドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ
ハジロ オオタカ チョウゲンボウ キジバン
オオバン コチドリ コアオアシシギ アオアシ
シギ イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ
ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨド
リ モズ ノビタキ セッカ ホオジロ カワラ
ヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (38種) 調整池には早くも冬の訪問者。
8種ものカモたちがエクリプス羽で出迎えてくれ
た。この日のハイライトは同じ水辺にいたアオア
シシギとコアオアシシギ。足が長くスマートでか
わいらしいコアオアシシギが印象的であった。ノ
ビタキや最後には民家園でツツドリにも出会え、
工事中の差間も大切な渡りの中継地。(手塚正義)

10月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 44人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ
カルガモ トビ オオタカ ノスリ コジュケイ
キジバト アカゲラ コゲラ ショウドウツバメ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
ノビタキ コサメビタキ シジュウカラ メジロ
カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) バード
ウォッチングにはもってこいの日和だったが、鳥
の姿も声も少ない。苛立ち始めたころ、林の中で
フライングキャッチを繰り返しているコサメビタ
キに出会った。また、畑では、こちらも採餌に夢
中のノビタキ3羽がじっくり見られた。明戸の堰
では到着したばかりのマガモが見られ、やっと渡
りの時期の探鳥会の格好がついた。(和田康男)



ヨシガモ (島田恵司)

連 絡 帳

●年末講演会にどうぞ

期日：12月24日(月・休)午後1時30分～
4時30分(受付開始午後1時)

会場：埼玉県県民活動総合センター(北足立
郡伊奈町、TEL 048-728-7111)

交通：大宮駅ニューシャトル 12:00 発または
12:30 発で羽貫駅下車。JR 上尾駅東口
から羽貫駅行きバス 12:04 発で終点下
車。羽貫駅からの無料送迎バスに接続
します。会場に駐車場もあります。

第 1 部 午後 1 時 30 分～午後 2 時
ビデオで振り返るこの 1 年。

第 2 部 午後 2 時 15 分～午後 4 時 30 分
中野泰敬 講演会。写真家で、日本野鳥
の会ネイチャースクールの講師でもあ
る中野氏が、豊富なツアー指導経験を
踏まえ、内外の野鳥やエコツーリズム
の現状などについて語ります。

第 3 部 懇親会(希望者のみ、会費 4,000 円)

●諫早湾問題意見広告の新聞掲載に協賛

諫早干潟緊急救済東京事務所から、カンパ
を求める連絡が届きました。地元では、水門
開放後の防災面での不安から事業見直しに戸
惑う声もあがっているのが、地域の防災につ
いては本来的な代替策があることを提示する
意見広告を、西日本新聞長崎県南版 1/3 ペー
ジに、10 月末ごろ掲載したいというものです。

当支部は 10 月の役員会で検討し、協賛団体
として 2 口 10,000 円を送りました。

引き続き支援をお願いしたいとのこと。

諫早干潟緊急救済東京事務所

〒171-0032 豊島区雑司が谷 3-7-3 ベルビ
ュー目白 701 TEL/FAX 03-3986-6490

<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~isahaya/>

郵便振替 00140-3-402895 (加入者名:諫早
干潟緊急救済東京)

●次期評議員の推薦変更

本部理事会の業務遂行をチェックし、意見を
述べる評議員。現評議員の任期は来年 1 月末
まで。次期評議員として当支部は海老原美夫
副支部長を推薦していましたが、海老原の事
情変更により、代わって橋口長和幹事を推薦
することになりました。

●12月の事務局 土曜と日曜の予定

1日(土) 普及部会議
2日(日) シラコバト見つけ隊会議。
8日(土) 1月号編集作業。研究部会議。
15日(土) 1月号校正。
16日(日) 役員会。
22日(土) 1月号袋づめの会。

●会員数は

11月1日現在 2,761 人です。

活 動 報 告

10月13日(土) 校正作業(海老原教子、美夫)。
10月20日(土) 評議員制度検討委員会に出
席(海老原美夫)。
10月21日(日) 役員会(司会:玉井正晴、4月ま
での行事予定・その他)。
10月22日(月) 11月号発送(倉林宗太郎)。

編 集 後 記

ヒメヤマセミ。数年前に
分布の最東端香港で見た
のが最初。今年の 10 月、
分布の最南端、南アフリカ
でも出会いを楽しみまし
た。同じホバリングをしていました。(海)



しらこぼと 2001 年 12 月号 (第 212 号) 定価 100 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに掲載されます。本誌またはホームページからの無断転載
は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社